

令和7年度第1回千葉県地域リハビリテーション協議会開催結果概要

- 1 日 時 令和7年7月29日(火) 18時00分～19時00分
- 2 会 場 オンライン開催
- 3 出席者 協議会員総数16名中16名出席
荒井泰助協議会員、荒木誠協議会員、飯田政則協議会員、岩本明子協議会員、
薄直宏協議会員、加藤那美子協議会員、金井要協議会員、川越正平協議会員、
菊地尚久協議会員、佐藤恵美子協議会員、高木憲司協議会員、武田從信協議
会員、福田浩子協議会員、松尾真輔協議会員、村田淳協議会員、米内聖子協
議会員(50音順)
オブザーバー1名(田中康之氏:県リハビリテーション支援センター)、傍聴者1名
出席
- 4 会議次第
 - 1) 開会
 - 2) 議事
 - (1) 地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について
 - (2) 有事における地域リハビリテーション行動指針策定事業について
 - (3) 各支援センターの令和6年度活動結果及び令和7年度活動計画について
 - (4) 令和6年度第68回県政に関する世論調査の結果について
 - (5) その他
 - 3) 閉会
- 5 会議結果概要
 - 1) 開会
事務局から、千葉県地域リハビリテーション協議会運営要領の改正について報告を行っ
た。
 - 2) 議事
 - (1) 地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について
事務局から資料1について説明し、以下のとおり質疑及び意見があった。

(金井協議会員)
ちば地域リハ・パートナーには様々な機関が参加しているようだが、行政機関との連携
はどの程度進んでいるのか。

(事務局)
行政機関との連携については、各圏域の広域支援センターを通じて連携が行われて
いる。連携が盛んな圏域とそうでない圏域はあるが、徐々に連携は増えていると認識して
いる。資料3-2に各圏域の実績がまとめられているため、別途ご確認いただきたい。

(金井協議会員)
2月から3月にかけて開催された研修プログラムの試行実施にはどの程度参加があり、
感想等はどのようなものがあったか。

(事務局)

試行実施では講師として JICA の久野研二氏を招き、講義やワークショップを開催した。参加者としては、医療機関や介護事業所、行政機関から29名の参加があった。

(金井協議会員)

君津会場の地域リハビリテーション導入研修について、本協議会と同日の開催であるため近隣であるにもかかわらず参加ができず、残念に思う。

(事務局)

地域リハビリテーション導入研修については、この後19時から開催予定である。日程調整や会場確保の関係でやむなく本協議会と同日開催となっている。なお、同じ内容の研修を千葉市、成田市で別途開催予定としている。

(オブザーバー 田中氏)

市町村との連携状況について、先日厚生労働省の視察で市原地域リハビリテーション広域支援センターを訪ねた際、市原市の担当者も同席するなど、行政機関とフラットに関われる広域支援センターが増えてきている。

研修プログラムの試行実施については、参加者からは総じて好評であったものの、難易度が高いという意見もあった。今年度実施する導入研修ではそこを考慮し、医療的リハビリテーション以外の部分について、かみ砕いて説明をする内容としていく。

導入研修の日程については、会場等の調整の関係で本日となっている。この圏域の行政機関や医療機関、福祉施設等から約35名程度の参加申込をいただいている。

(2) 有事における地域リハビリテーション行動指針策定事業について

事務局から資料2について説明し、以下のとおり質疑があった。

(荒井協議会員)

今後有事における地域リハビリテーション行動指針策定事業を全圏域に広げていくとのことだったが、有事の際は各広域支援センターも各々の対応で手一杯な部分もあるように思う。業務として当該事業の対応を行う場合、どの程度マンパワーを割くことを想定しているか。

(オブザーバー 田中氏)

本事業は災害時の避難所支援等ではなく、現在取り組んでいる地域リハビリテーションの支援体制を広げ、普段からのつながりづくりによって令和6年度に整理した7つの課題をどのように解決していくかを議論し、作成していくものとなっている。会議等が増える可能性はあるが、多くのマンパワーを割くことは想定していない。各広域支援センターにあまり負荷がかからない形で実施できるよう、モデル圏域で実施しながら考えていく。

(3) 各支援センターの令和6年度活動結果及び令和7年度活動計画について

事務局から資料3-1について説明し、質疑及び意見はありませんでした。

(4) 令和6年度第68回県政に関する世論調査の結果について

事務局から資料4-1について説明し、質疑及び意見はありませんでした。

(5) その他

(川越協議会員)

資料3-2については、個別の説明はないのか。

(事務局)

資料3-2は資料3-1の基資料となっており、詳細な説明は行わない。量が多く申し訳ないが、別途ご確認いただきたい。

(川越協議会員)

全体に関連することとして、県内各地域でリハビリテーションに関わる団体・組織の有無や、またその活動状況について把握し、資料としてお示しいただければありがたい。

(事務局)

現時点でお示しできるものはない。今後どういったものを提示できるかは分からないが、今回のご意見を参考とさせていただく。

(オブザーバー 田中氏)

現在、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の3団体で連合体を動かす話になっているが、市町村毎に3職種及びその連合体がどの程度組織されているかは把握できていない。各職能団体と県の橋渡しをしながら情報共有をする形を取っていきたい。

また、市町村によって医療機関や専門職のあり方も違うため、県全体で平均的に実施をしていくのは難しい部分がある。

(川越協議会員)

3団体連合体の活動に期待する。千葉県医師会としては県医療整備課と連携し、千葉県脳卒中連携の会を長年継続して実施しており、17回目を迎えるところである。本取組を地域生活期に広げていく上で、各地域のリハビリ領域の方に参画いただきたいが、県内の団体の状況を把握できていないため、今回お尋ねした。地域によって違うことは承知しているため、まずは把握からと感じる。県組織でも、高齢者福祉課や医療整備課等それぞれで行っている事業と連動していくことを期待する。

その他、事務局から諸連絡を行った。

3) 閉会